

基礎作業学分野

學習資料

重要な学習項目

- 作業の定義、作業の分類、作業が人に及ぼす影響・意味
- 作業分析・活動分析・工程分析の視点
- 治療的作業、段階づけ、適応づけ、環境調整
- ADL・IADL・仕事・余暇・休息・睡眠の理解
- ICF、QOL、作業バランス、作業剥奪・作業的疎外
- COPM、AMPS、FIM、BIなどの基本的評価指標
- 対象者中心、目標設定、作業療法過程、集団活動の基礎

作業の基本概念

項目	内容
作業	人が日常生活の中で行う、目的や意味をもつ（ ① ）の総称。
作業療法	対象者が望む生活行為を実現できるよう、（ ② ）を用いて支援する。
作業遂行	人・作業・環境の相互作用の中で、作業を実際に（ ③ ）すること。
作業参加	家庭・学校・職場・地域などで、その人らしく作業に（ ④ ）すること。
治療媒体	作業療法では、作業活動そのものが治療の（ ⑤ ）となる。

空欄を埋めなさい。

作業の分類

分類	内容
セルフケア	食事、更衣、整容、排泄、入浴、移動など、自分の生活を維持するための作業。
生産活動	学業、家事、仕事、ボランティアなど、役割や社会参加に関わる作業。
余暇	趣味、運動、交流、休養など、楽しみや満足感に関わる作業。
休息・睡眠	心身の回復、疲労回復、生活リズムを整える作業。
社会参加	家庭・学校・職場・地域の中で役割をもって関わること。

※ 上記の分類に当てはまる具体例を、それぞれ2つずつ挙げなさい。

作業活動の治療的意義

視点	内容
身体機能	関節可動域、筋力、協調性、巧緻性、持久力などに働きかける。
認知機能	注意、記憶、遂行機能、問題解決、手順理解などに働きかける。
心理面	達成感、自己効力感、意欲、感情表出、ストレス調整に関わる。
社会面	役割、対人交流、協力、コミュニケーション、社会参加に関わる。
意味	対象者にとって（ ① ）がある作業ほど、動機づけにつながりやすい。

空欄を埋めなさい。

作業分析の視点

分析項目	確認する内容
運動面	姿勢、関節運動、筋活動、把持、巧緻性、協調性、持久力。
感覚面	視覚、触覚、固有感覚、前庭感覚、聴覚、温痛覚など。
認知面	注意、記憶、理解、判断、計画、遂行機能、危険予測。
心理社会面	意欲、興味、達成感、役割、対人交流、文化的意味。
環境面	物理的環境、人的環境、制度、時間、道具、費用。

※ 作業分析では「どの機能を使うか」だけでなく、「その人にとって何を意味するか」も考える。

工程分析と活動分析

用語	内容
工程分析	作業を手順ごとに分け、開始から終了までの（ ① ）を明らかにする。
活動分析	作業に必要な身体・認知・心理・社会・環境の（ ② ）を明らかにする。
動作分析	姿勢、運動方向、関節運動、筋活動、代償動作などを観察する。
課題分析	課題の難易度、必要な手順、判断、注意配分、道具操作を整理する。
臨床での活用	対象者の能力と課題要求を照合し、介入や（ ③ ）を考える。

空欄を埋めなさい。

治療的作業

項目	内容
目的性	作業活動は、対象者の目標に結びつく（ ① ）を明確にして用いる。
意味性	対象者にとって意味のある作業は、参加意欲や継続性を高めやすい。
適合性	対象者の能力・興味・価値観・生活環境に合う作業を選択する。
安全性	疲労、疼痛、転倒、創部、感染、循環・呼吸状態などを確認する。
結果の活用	作業遂行の結果から、評価・目標・介入計画を（ ② ）する。

空欄を埋めなさい。

段階づけ・適応づけ

用語	内容
段階づけ	難易度・量・時間・速度・精度・姿勢・道具を調整し、課題要求を変える。
易しくする例	工程数を減らす、座位で行う、道具を太くする、時間制限をなくす。
難しくする例	立位で行う、両手操作にする、速度・精度を求める、同時課題を加える。
適応づけ	作業方法・道具・環境を対象者に合わせ、遂行しやすくする。
重要点	課題要求と対象者の能力の（ ① ）を調整する。

空欄を埋めなさい。

作業療法過程

段階	内容
情報収集	医学的情報、生活歴、役割、価値観、環境、本人の希望を把握する。
評価	心身機能、活動、参加、環境、作業遂行上の問題を明らかにする。
目標設定	対象者と共有できる、具体的で測定可能な目標を立てる。
介入計画	評価結果に基づき、作業活動・練習・環境調整・教育を計画する。
再評価	介入の効果を確認し、計画を（ ① ）する。

空欄を埋めなさい。

目標設定

観点	内容
長期目標	退院後や生活再建後に達成したい、参加や役割に関わる目標。
短期目標	長期目標に向けて、一定期間内に達成可能な具体的目標。
SMART	Specific、Measurable、Achievable、Relevant、Time-boundの頭文字。
対象者中心	専門職の都合ではなく、本人の希望・価値観・生活文脈を重視する。
国試頻出	「機能改善」だけでなく、（ ① ）や参加につながる目標が望ましい。

空欄を埋めなさい。

ICFと作業療法

ICFの構成要素	作業療法での見方
心身機能・構造	麻痺、筋力、感覚、認知、疼痛、関節可動域など。
活動	食事、更衣、移動、家事、学習、仕事などの具体的生活行為。
参加	家庭内役割、学校・職場復帰、地域参加、余暇活動など。
環境因子	住環境、道具、家族、制度、支援者、社会資源など。
個人因子	年齢、価値観、生活歴、興味、習慣、対処方法など。

※ ICFでは、疾病名だけでなく「活動」と「参加」の制限を整理する。

ADL・IADL

用語	内容
ADL	Activities of Daily Living。食事、更衣、整容、排泄、入浴、移動などの（ ① ）動作。
BADL	生命維持や身辺処理に関わる基本的ADL。
IADL	Instrumental ADL。買い物、調理、掃除、金銭管理、服薬管理、交通機関利用など。
生活行為	本人が生活の中で行う、意味や目的をもった具体的な作業。
支援の視点	「できる動作」だけでなく、実際の生活で（ ② ）しているかを確認する。

空欄を埋めなさい。

作業バランス

項目	内容
作業バランス	セルフケア、生産活動、余暇、休息などが、その人にとって適切に配分されている状態。
過活動	役割や義務が過多となり、疲労・疼痛・ストレスが増悪しやすい。
不活動	活動量や参加機会が少なく、廃用、孤立、意欲低下につながりやすい。
生活リズム	睡眠、食事、活動、休息の規則性が心身機能や参加に影響する。
介入	作業量・作業時間・休息・環境を調整し、（ ① ）を整える。

空欄を埋めなさい。

作業剥奪・作業疎外・作業的不公正

用語	内容
作業剥奪	本人の意思とは関係なく、環境や制度により必要・希望する作業ができない状態。
作業疎外	作業に意味や満足を感じられず、自分らしさと結びつきにくい状態。
作業的周縁化	意思決定や選択の機会が乏しく、作業の選択が制限される状態。
作業的不公正	人が健康や幸福に必要な作業へ公平に参加できない状態。
支援の視点	個人の機能だけでなく、社会・制度・環境による（ ① ）にも注目する。

空欄を埋めなさい。

基礎作業学に関連する評価

評価	主な内容
COPM	対象者が重要と考える作業課題を把握し、遂行度・満足度を評定する。
AMPS	ADLやIADL遂行を観察し、運動技能とプロセス技能を評価する。
FIM	運動項目・認知項目から日常生活の自立度を評価する。
Barthel Index	基本的ADLの自立度を評価する。
興味・役割の評価	興味チェックリスト、生活歴、役割、価値観を面接で把握する。

※ 何を測る評価か、どの場面で使うかを整理する。

COPM

項目	内容
正式名称	Canadian Occupational Performance Measure。
目的	対象者が重要と感じる作業課題を明らかにする。
領域	セルフケア、生産活動、余暇の3領域を扱う。
評価	重要度を確認し、遂行度と（ ① ）を10段階で評価する。
特徴	対象者中心の面接式評価であり、介入前後の変化を把握できる。

空欄を埋めなさい。

AMPS

項目	内容
正式名称	Assessment of Motor and Process Skills。
評価方法	実際のADL・IADL課題を（ ① ）して評価する。
運動技能	姿勢保持、移動、物品操作、協調性、努力、効率など。
プロセス技能	注意、選択、順序、問題解決、時間配分、適応など。
特徴	作業遂行を観察し、介入や環境調整の方向性を考える。

空欄を埋めなさい。

FIM・Barthel Index

評価	内容
FIM	18項目、各1～7点。合計（ ① ）点で、点数が高いほど自立度が高い。
FIM運動項目	食事、整容、清拭（身体清拭）、更衣、トイレ、移乗、移動、階段など。
FIM認知項目	理解、表出、社会的交流、問題解決、記憶。
BI	食事、移乗、整容、トイレ動作、入浴、歩行、階段、更衣、排便、排尿を評価。
国試頻出	FIMは介助量、BIは基本的ADLの（ ② ）を問われやすい。

空欄を埋めなさい。

集団作業活動

項目	内容
目的	対人交流、役割遂行、協調性、社会性、自己表現、活動性の向上。
構造	目的、人数、時間、場所、役割、ルール、活動内容を明確にする。
観察点	参加態度、発言、役割、他者との関わり、集中、疲労、達成感。
治療者の役割	安全管理、場の調整、参加促進、振り返り、必要時の介入。
注意点	集団活動でも、個々の（ ① ）と目標を踏まえて実施する。

空欄を埋めなさい。

リスク管理

確認項目	内容
バイタル	血圧、脈拍、SpO ₂ 、体温、呼吸状態、疲労感。
疼痛・炎症	疼痛部位、増悪動作、腫脹、熱感、創部、感染兆候。
転倒・外傷	姿勢、バランス、環境、床面、靴、補助具、注意障害。
疾患別注意	心疾患、呼吸器疾患、糖尿病、骨折、麻痺、認知症など。
国試頻出	活動の効果だけでなく、禁忌・中止基準・安全確保を問われる。

※ 作業活動は「楽しそう」だけで選ばず、安全性と目的を必ず確認する。

国試頻出ポイント

頻出観点	押さえる内容
作業の意味	対象者にとっての価値、役割、生活文脈を問う。
作業分析	身体・認知・心理社会・環境の要求を整理する。
段階づけ	難易度を上げる／下げる具体的方法を問う。
評価選択	COPM、AMPS、FIM、BIなどの目的の違いを問う。
介入選択	機能練習だけでなく、活動・参加につながる介入を問う。

※ 選択肢では「対象者中心」「目的性」「生活への汎化」が重要な判断軸になる。

Level 2：作業分析の練習

課題：

片麻痺のある対象者が「調理」を再開したいと希望している。調理動作を作業分析しなさい。

視点	記入欄
工程	例：献立を決める → 材料を準備する → 切る → 加熱する → 盛り付ける
身体機能	()
認知機能	()
環境・道具	()
安全面	()

※ 調理に必要な能力と、危険場面を具体的に記入しなさい。

Level 2：介入計画の練習

課題：

手指の巧緻性低下があり、箸操作が難しい対象者に対して、作業活動を用いた介入を考えなさい。

項目	記入欄
目標	()
評価	()
作業活動	()
段階づけ	易しくする： () / 難しくする： ()
生活への汎化	()

※ 機能練習だけでなく、実際の食事場面につながるように考えなさい。

国試形式練習問題 1

対象者中心の作業療法として最も適切なのはどれか。

1. 治療者が選んだ活動だけを反復させる。
2. 本人の希望や生活歴を確認して目標を共有する。
3. 身体機能の改善のみを最終目標にする。
4. 病名が同じ対象者には同じ作業活動を用いる。
5. 安全確認よりも活動への参加を優先する。

※ 正しい選択肢を1つ選び、その理由を説明しなさい。

国試形式練習問題 2

作業分析で確認する内容として適切でないのはどれか。

1. 作業に必要な関節運動や筋活動
2. 作業の手順や使用する道具
3. 対象者にとっての作業の意味
4. 作業遂行に影響する環境因子
5. 疾患名だけで作業の難易度を決定すること

※ 不適切な選択肢を1つ選び、その理由を説明しなさい。

国試形式練習問題 3

COPMについて正しいのはどれか。

1. 関節可動域を測定する評価である。
2. 対象者が重要と感じる作業課題を扱う。
3. 認知項目のみを7段階で採点する。
4. 介助量を中心に点数化する評価である。
5. 観察のみで実施し、面接は行わない。

※ 正しい選択肢を1つ選びなさい。

国試形式練習問題 4

段階づけで課題を難しくする方法として適切なのはどれか。

1. 工程数を減らす。
2. 座位で実施する。
3. 時間制限をなくす。
4. 同時課題を加える。
5. 道具を大きく持ちやすくする。

※ 正しい選択肢を1つ選びなさい。

国試形式練習問題 5

作業剥奪の説明として最も適切なのはどれか。

1. 作業に意味を感じにくい状態。
2. 作業の手順を細かく分けて分析すること。
3. 環境や制度により必要な作業に参加できない状態。
4. 作業を用いて身体機能を改善すること。
5. 活動量を意図的に増やして課題要求を上げること。

※ 正しい選択肢を1つ選びなさい。

解答例

- 空欄補充の主な解答例を示す。
- 国試形式練習問題はオリジナル問題です。

解答例 1

スライド	解答例
3	①活動／生活行為 ②作業 ③遂行 ④参加 ⑤媒体
5	①意味
7	①流れ・手順 ②要求 ③段階づけ・適応づけ
8	①目的 ②修正・見直し
9	①バランス・適合
10	①修正・見直し

解答例 2

スライド	解答例
11	①活動
13	①基本的日常生活 ②遂行・実施
14	①生活リズム・作業バランス
15	①制限・障壁
17	①満足度
18	①観察
19	①126 ②自立度
20	①状態・ニーズ

国試形式練習問題 解答例

問題	正答	ポイント
1	2	対象者中心では、本人の希望・生活歴・価値観を踏まえて目標を共有する。
2	5	疾患名だけでは作業の難易度は決められない。作業要求と個人・環境を分析する。
3	2	COPMは対象者が重要と感じる作業課題の遂行度・満足度を扱う。
4	4	同時課題を加えることは課題要求を高める段階づけである。
5	3	作業剥奪は環境や制度などにより必要・希望する作業に参加できない状態。